



はるかなれ、  
地球、未来、わたしたち  
Permanent Planet 株式会社



## ゴミを持ち帰るランナー

特に大会では、スタート前に防寒用に着る雨合羽や走行中の携行食の包装などのゴミが発生しがちです。会場やコース上に設置されたゴミステーションに命中しないゴミはコース周辺に残置されてしまう可能性があります。  
ゴミは自分のポケット等へ押し込み、自分の走ったあとにゴミの足跡を残さない嗜みを心掛けたいですね。



## マイカップやマイボトルを携行するランナー

日々のランニングや大会において、飲料を飲むたびにペットボトルやプラスチックカップ等の資源を消費せず、自分でカップやボトルを携行し、命の短いプラスチック消費を減らしましょう。  
カップが散らばらないコースは走りやすいこと間違いなし！  
そしてマイボトルには自分だけのスペシャルドリンクを入れることもできますよ。

# エコランナーのすすめ!



私たちは自然とともにあるランナーです。  
ランナーだからこそ感じる気候変動の影響。  
私たちの小さなアクションが大きな力になるはず。  
地球と伴走して、次世代にバトンを渡してゆけたらと考えます。



紙コップが道路に散らばっているのって走りづらいよね、ゴミも増えるし

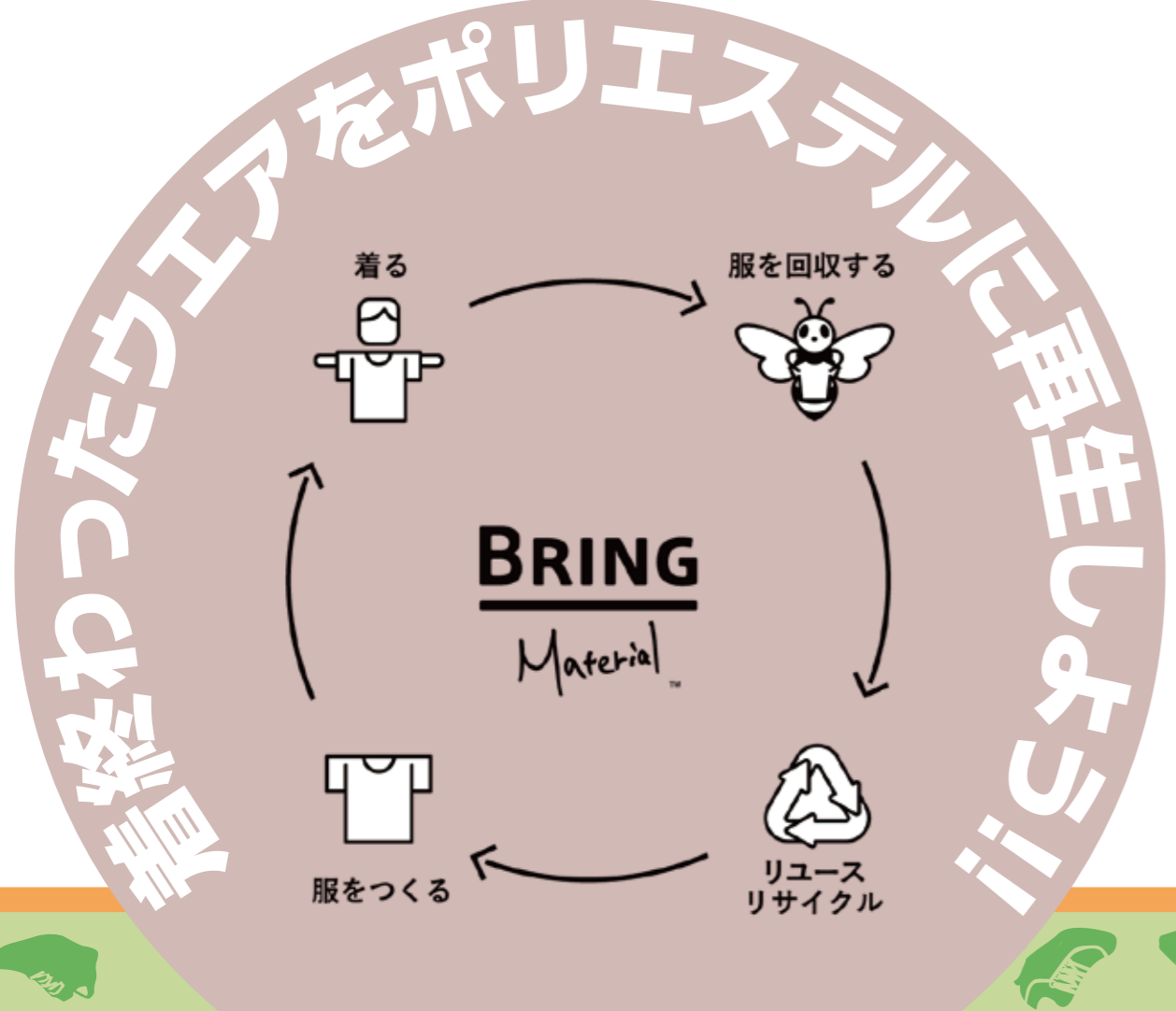
## リサイクルするランナー

日々の練習を楽しむランナーは、様々な機能やデザインのウェアのほか、参加する大会で入手する記念Tシャツなど、気が付くと沢山の衣服を所有しがちです。最近では、こうした不要になった衣服を店舗や大会会場で回収しリサイクルする取組が広がっています。リサイクルによって廃棄される服や新たに石油原料で製造される服が減らせる可能性があります。  
体重とともにタンスの中を身軽にするランナーを目指してみませんか。  
ポリエステルをケミカルリサイクルし、石油の消費を減らすテクノロジーBRINGの回収ボックスを、当ブースで設置しています。



## 電車とバスに乗るランナー

国内外の大会を楽しむランナーは、ランニングの走行距離とともに全国各地への移動距離も長い傾向があります。  
全国のランナーが、個別のマイカーでの移動から時々電車やバスを使って移動するだけで、世界のランナーのCO2排出量は沢山減らせる可能性があります。





# 不要なランウェアのリサイクル回収の 挑戦にご協力をお願いします。

豊かな自然の中を走る紀州口熊野マラソンのバトンを未来に繋ぐため、ランナー1人ひとりが取り組める企画を考えました。

そこで、限りある資源を繰り返し大切に使う『サーキュラーエコノミー』の考え方に賛同し、タンスに眠っている着なくなったランニングウェアをリサイクルできる”BRING SPOT”を大会会場に設置することとしました。

是非この機会に不要なウェアの回収にご協力をお願いします。

## 【回収できるもの】

○ 不要になったランニングウェア/スポーツウェア

※リサイクルを有効に行えるよう回収品を会場にお持ちになる前に**必ず洗濯**をお願いします。

## 【回収できないもの】

✕ 肌着、下着、靴下、水着、着物、キャリーバッグ、その他汚れがあるもの

✕ 衣類以外の布製品（布団、シーツ、まくら、マット等）

※上記以外でも状態によりスタッフの判断で回収をお断りする場合がございます。

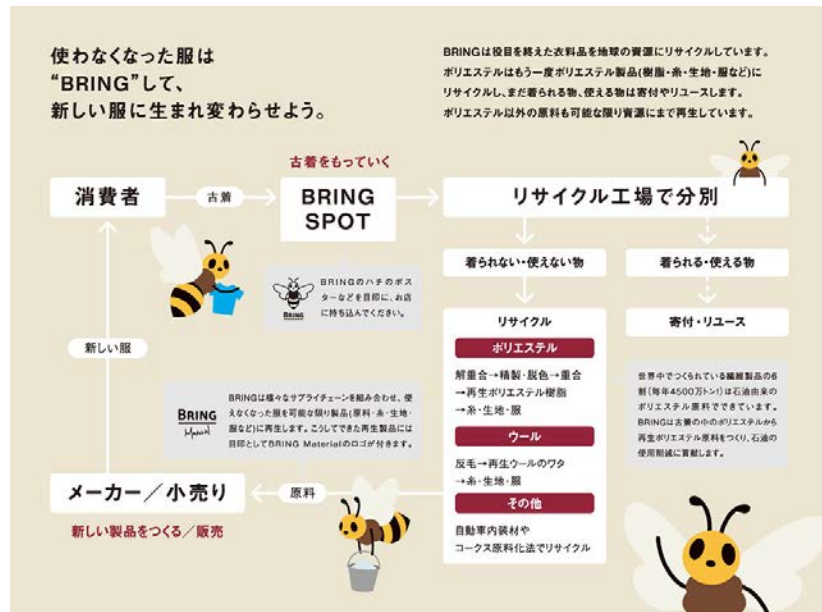
## 【BRING】

回収した物で、着られる物・使える物はリユースされます。

使えなくなってしまった物は服の原料になるだけでなく素材ごとに分別され、様々な方法でリサイクルされます。ポリエステルだけでなくコットンやウールなども回収可能です。



大会会場のエコランナーブースに設置される回収BOXまでウェアをお持ちください。



後援：紀州口熊野マラソン実行委員会事務局  
協力：Permanent Planet 株式会社